

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」和歌山岩出校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 17日		～	2025年 11月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	58	(回答者数)	40
○従業者評価実施期間	2025年 11月 17日		～	2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	その児の特性を理解し、支援内容に工夫した支援内容にしている。また、保護者との対話を大切にし、情報共有することで、本児に必要なことや難易度に合わせた支援を行うことができる。	担当制にすることで、その児の得意不得意を把握し、成長と一緒に見守れるようにしている。また、繰り返し行う必要がある課題や難易度を調節できるようにしている。	他事業所等と共有を行い、自分たちの役割や目標を立て、その児に合った支援をできるようにしていく。
2	元気いっぱいの小学生が、楽しみながら学習に取り組めるように、静と動を入れながら学んでいけるようにしている。	いかに学習ではなく、遊んでいる感覚で学習できるようにするかを工夫している。児童の好きなものを取り入れながら、体を動かしたり、ゲーム感覚で基礎知識を入れられるにしている。	教室いなる教材や玩具をフル活用し、新しい学び方を見つけたいけるようにする。
3	元日本語学校で勤めていた指導員が、英語学習に特化している。また、日本語の使い方にも特化しているため、文章読解への理解の仕方等も基礎から伝えることができる。	正確な情報に基づき明確な目標を持たせ、受験に向けた学習や、言葉の基礎を行えるようにしている。学校以外でも相談できる場所として、アドバイス(手助け)できるように注力している。	言葉の面白さを伝えられるように、児童の様子を見ながら、やりすぎない程度に取り組み、児童や保護者のニーズに沿った学習を行えるようにする。 また、指導員への研修も行い、ほか指導員の強化も図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援室がワンフロアなので、広いのはよいが、個々の支援内容が異なるため、互いに影響を受けやすい。	学習支援とからあを動かす支援など、同時間に重なるため、同時刻に取らないが理想ではあるが、保護者の都合や以降により物理的に難しい。	できるだけ視界に入らないように椅子の向きを変える。パテーションやホワイトボードを使用し仕切りを立て、できるだけ気が散らないようにし、おあそびスペースの確保を行う。学習から動きのタイミングを合わせる。指導員の声の大きさにも気を付ける。
2	保育者同士のかかわりや、研修、対話をする機会が少なかった。	利用者が多いため、時間の確保が難しかった。共働きの家庭が多いため、保護者の都合を考えすぎていた。	場所の提供だけでもできるようにする。イベントの開催を行い、保護者が横のつながりを持てる機会を作れるようにする。
3	保育所等訪問や、教育機関との連携が不足している。	積極的に保護者への打診や提案を行えていなかった。	保護者と連携をとって、学校訪問や情報提供できるよう、声掛けをしていく。また、相談を受けた際は、学校の様子を見たいという要望も打診する。繋げてもらう。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」和歌山岩出校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 58

回収数 40

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	33	4	1	2	・少し狭いように思う。ボール遊びをする子もあるので広いほうがいい。・遊ぶスペースもありとても嬉しい。	マットやバレーションで仕切りをつけ、個々に伸び伸びと遊べるスペースを確保できるように工夫する。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	37	2	0	1	・利用日が職員さんの不足で減ったので大変なのかと思った。	利用児が増え、少しでも利用者が利用できるよう、配分する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	34	2	1	3		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	37	3	0	0	・とても清潔。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	38	1	0	1	・支援内容を毎回丁寧に説明し、子どもの今の状況を報告してくれる。・本人があまり支援の詳細を言わないので分かりづらい。	保護者との情報共有を密に行い、支援内容を十分に理解してもらえようにする。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	36	0	0	4		保護者との情報共有を密に行い、支援内容を十分に理解してもらえようにする。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	38	1	0	1		保護者との情報共有を密に行い、支援内容を十分に理解してもらえようにする。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	38	0	0	2		保護者との情報共有を密に行い、支援内容を十分に理解してもらえようにする。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	38	1	0	1		保護者との情報共有を密に行い、支援内容を十分に理解してもらえようにする。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	37	2	0	1		保護者との情報共有を密に行い、支援内容を十分に理解してもらえようにする。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	5	14	17	・他児童と触れ合った話はまだ聞いたことがない。	今後、検討してみる
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	40	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	39	1	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	7	1	19	・家族が参加できる研修はない、ペアレントトレーニングに興味がある。・知らないだけかもしれない。	今後、検討し、取り組んでいく予定。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	37	2	0	1		保護者との情報共有を十分にを行い、共通理解できるようにする。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	36	1	0	3	・放課後友だちとの困りごとを相談した際はこちらが驚くほど親身に相談に乗り、勉強以外にも様々な支援をしている。	保護者との情報共有を十分にを行い、共通理解できるようにする。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	40	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	5	6	22	・双子の兄弟同士の交流や支援をしている。	今後、検討し、取り組んでいく予定。

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	36	0	0	4		保護者との情報共有を密に行い、相談や申し入れに迅速かつ適切に対応していく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	39	0	0	1		保護者との情報共有を十分に行い、共通理解できるようにする。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	4	0	15		今後、配信頻度等、検討し、配信内容の工夫に取り組んでいく予定。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	36	1	0	3		保護者への説明を十分に行い理解していただく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	27	2	0	11		保護者への説明を十分に行い理解していただく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	3	1	23	・これまで支援時間と訓練が重なったことがないので分からない。	保護者への説明を十分に行い理解していただく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	32	3	0	5		保護者への説明を十分に行い理解していただく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	1	0	11	・まだ事故や怪我の発生はないがすぐに連絡をしてくれると思う。・これまでそのような経験がないため分からない。	保護者への説明を十分に行い理解していただく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	39	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	37	3	0	0	・毎回楽しみにしている。・先生とお別れする直前までずっと話続け、最後にはハイタッチまでしている姿を見るととても楽しい時間を過ごすことができたのだと感じる。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	38	2	0	0	・大変満足している。・子どもの一方的な希望でも否定せず一緒に考えてくれるので楽しんでいる。・いつも子どもに寄り添いながら臨機応変に対応してくれるので大変嬉しい。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」和歌山岩出校				公表日	2026 年 2 月 14 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		復習の支援が重なった時の配置について、その都度支援内容で配置を考えている。	身体を使う遊び（バランスボール・ドッチボール等）をする際に、他児との距離が近くなり、怪我の危険性が高くなる場面があった。完全な個室が必要だと考える。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		便座を蓋つきのものに変えた。	トイレが構造上匂いがひどい時もある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		イベント等を行いながら、集団活動なども行った。	イベントや集団を増やそうという考えは共有されている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		どこの席にするかなどの打ち合わせ、後半の残った時間で一緒に活動するか等の内容を確認し合った。	支援前の職員間での打ち合わせは、必ずとは言い切れないが必要に応じ適宜行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		一定に時間を決めて設けてはいないが、利用時の様子や内容はその都度、指導員間で共有している。	支援終了後の打ち合わせは必ずではないが、必要に応じ行っている。雑談レベルでは常に行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		今後は、利用者の通う学校の様子や環境等を見学し、学校との連携を深めながら支援の充実を図る	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		情報共有の方法を整理し、関係機関との連携強化を図る。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		把握できていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	地域の児童発達支援センターを利用している利用時の情報共有は行っているが、助言等を受ける機会を設けていないため、今後、必要に応じて取り組んでいく。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	今後は、交流や共同活動が行える機会の検討を進め、段階的に実施できる体制づくりを行う。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		FBや相談内容に応じて、対応していけるようにする。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	今後、保護者同士での交流会も行っていきたい。	これから計画と立て行動していく予定
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時や対話の中で確認しているが、職員間でも共有と把握を徹底する。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	契約時や対話の中で確認しているが、職員間でも共有と把握を徹底する。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき研修・訓練を実施し、職員間での共有を行いながら、安全委配慮した支援が提供できている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時や対話の中で確認しているが、職員間でも共有と把握を徹底する。	把握できていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		契約時や対話の中で確認しているが、職員間でも共有と把握を徹底する。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時や対話の中で確認しているが、職員間でも共有と把握を徹底する。	